

令和6年度 学校教育目標「挑戦 つながる笑顔 丹那の子」

重点目標「自ら学び、共に高め合う子」「自分の思いや考えを言葉で表現できる子」



丹那小だより

函南町立丹那小学校
令和6年12月発行

「実体験」からの学び

校長 土屋 清隆

11月12日（火）に搾乳体験、25日（月）には音楽のちからコンサートを行いました。

搾乳体験では、目の前にいる乳牛の大きさにあらためて驚いたり、乳首の温かさや柔らかさを感じ取っていたりしました。音楽のちからコンサートでは、ピアノ、バイオリン、チェロの演奏を目の前で聴いたり、ビリーブという曲を生演奏で歌ったり、あっという間の1時間でした。間近で演奏される曲に子供たちは、目や耳、身体と心で直接感じていました。自然と拍子がわき、体が動いている姿が見られました。音楽の授業でもCDやビデオで曲を聴くことはありますが、ここまでの姿は、なかなか見られません。生の演奏（体験）だからこそ、心が動き、表現したくなったのではないのでしょうか。

体験活動には「直接体験」と「間接体験」や「模擬体験」があります。今は、インターネット

（SNS）やテレビ等を介して感覚的に学び取る「間接体験」や、シミュレーション等を通じて模擬的に学ぶ「模擬体験」の機会が圧倒的に多くなっています。インターネット（SNS）やテレビ等には良い面もありますが、小学生の発達段階においては注意が必要な面もあります。



本校の学校教育目標に「つながる」という言葉があります。人と人との関わり合い、本物との出会い、ふれあいは、まさに「直接体験」において、一番成長が期待できるものです。子供たちの生活においては、全てが上手くいくわけではありません。むしろ、そうでない方が多いのではないのでしょうか。しかし、この「上手くいかないから、どうしよう。みんなが納得できるように何とか考えよう。」という、直接体験（実体験）の中で得た知識や考え方が、これからをの時代を生きる子供たちの「生きる力」の基になると考えています。